

# 東北地区 高校生SDGsセミナー 2019

## ～ SDGsと環境で東北を元気にする地域循環共生圏 ～

主催 全国ユース環境ネットワーク事務局  
 共催 環境甲子園(NPO法人環境会議所東北)  
 協力 環境省 東北環境パートナーシップオフィス(EPO東北)  
 東北地方ESD活動支援センター  
 協賛 キリンホールディングス株式会社 協栄産業株式会社 SGホールディングス株式会社



2019年8月6日、地域の課題探求に取り組む東北地方6県12校の高校生が仙台に集まり、持続可能な地域循環共生社会形成に向けた研修が行なわれました。2030年に向けたSDGs採択に至るまでの世界の動き、セヴァン・カリス=スズキ/リオサミットのスピーチが紹介されセミナーが始まりました。循環型社会形成に積極的に取り組む企業から東日本大震災で甚大な被害を受けた南三陸町における具体的事例が紹介され、その後行ったワークショップでは「私たちは変わる！そして私たちで変える！」を念頭に2ステップで意見を出し合い、SDGs達成に向けチェンジメーカーになることを宣言しました。東北地区 高校生SDGsセミナーの詳細を報告します。



セミナー記念撮影

### 基調講演

藤田和乎さん アミタ株式会社

## 自然資本 × 人間関係資本で実現する「持続可能な社会」

資源・エネルギーが循環するサプライチェーンの構築に向けて、対企業、対地域でそれぞれのソリューションを最適に組合せた事業を展開しているアミタ株式会社。現代社会が抱える急速な人口減少と少子高齢化という負のスパイラルからの脱却に向け、地域全体を巻き込み展開している取り組みを「南三陸町における新しい社会システムづくりへの挑戦」と題して紹介しました。

この取り組みは、家庭から排出されるゴミの約40%に当たる生ごみと浄化槽などから排出される汚泥をバイオガス施設で再資源化し地域に還元するものです。産業と技術革新(SDGs-9)、廃棄物をバイオマスとして活用する(SDGs-7)への貢献！という「物」を中心とした形に加えて興味深かったのは、住民総出で生ごみ減量に取り組んでいること、生み出されたい肥を自分たちで利用し生産・販売するシステムの中に企業だけでなく地域が関わり存在していることでした。これは「つくる責任つかう責任」(SDGs-12)の地域による実践です。このシステムは働きがいと経済成長(SDGs-8)や豊かな大地を守る(SDGs-15)ことにも繋がっていきます。

養殖中心となってきた漁業者も持続可能な森林経営を目指す林業者も地域の未来を見据えそれぞれASC認証(SDGs-14)、FSC認証(SDGs-15)を取得し、ひとつひとつが繋がって南三陸町のスパイラルは負から正に変わりつつあります。そこにはまさに住み続けられる街(SDGs-11)が見えてきました。廃棄物が課題となって負のスパイラルに陥っているパラオでのシステム作りも始まっているそうです。様々な地域課題を大きな流れに取込んで解決していく姿が、集まった高校生たちに大きな気づきを与えた発表となりました。



藤田和乎さん



講演中の高校生達の様子

### ワークショップ

海藤節生さん NPO法人 環境会議所東北 主任研究員  
 (ファシリテーター) NPO法人 水守の郷・七ヶ宿 理事長

## 私達は変わる！そして私達で変える！ 「地域循環共生圏」

体験したことのない社会や未来のことを自分事としてとらえること。課題の背景や解決策を探るためには創造力を発揮して物事を複眼的にみるのが大切だというお話からSDGsにつながる4つの柱(自発性、無償性、利他性、創造性)について話があり、セミナーのテーマである「SDGsと環境で東北を元気にする地域循環共生圏」を目指し東北6県で活動する高校生がシャッフルして6つのグループを作りそれぞれのテーブルで知恵を出し合いました。

①自分たちの活動は「どんな課題に対してどのようなアプローチをしているのか？」

②その活動の陰には「どんな背景が存在するのか？」

各高校の取り組みに対して二つの視点で意見を出し合うワークショップです。



海藤節生さん



ワークショップの様子